

# 桜道

第94号



愛知県立春日井高等特別支援学校

春日井市中切町二丁目3-8

電話 &lt;0568&gt; 85-3511

題字 29回生 K・S 書

## 旅立ちの日に贈る言葉

校長 橋部 和典



季節の変わり目を感じられないまま始まった冬も、厳しい寒さから日差しの温かさへと移り

変わり、春の訪れを感じる頃となりました。二十九回生の皆さん、御卒業おめでとうございます。保護者の皆様におかれましても、お子様の御成長とお卒業を心よりお喜び申し上げます。二十九回生の皆さんは、振り返れば、小学校の卒業式や中学校の入学式を、新型コロナウイルス感染症による臨時休校期間の中、様々な制限を受けながら迎えたことと思います。中学校の卒業式も、学校によっては制限があったかもしれません。こうして今、社会へと羽ばたいていく皆さんを、在校生や職員全員の笑顔で送り出すことができます。ことに、大きな喜びを感じております。VUCAという言葉があります。先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態を指します。学校を見回しても、この数年で様々なものが変わりました。長く暑い夏を過ごすために教室や体育館にエアコンが設置され、コロナ禍を経て、一人一台タブレットを活用した授業やリモートでの学びが可能となり

ました。学校に限らず、生成AIはあっという間に生活の身近な存在となりました。数年前には想像すらできなかったことが現実となる時代です。そのような世の中に、皆さんは飛び込み、自分の力で歩んでいきます。

これまで学んできたこと、身に付けてきたことを頼りに、予測困難な時代を進んでいかなければなりません。分かりやすい正解はないかもしれません。

しかし、皆さんなら大丈夫です。春日井高等特別支援学校で学び、いくつもの日々を乗り越えてきた経験が、きっと皆さんを支えてくれるはずで。そして何より、一緒に学んできた仲間がいます。皆さんが文化祭で歌った「片道の人生に出会い」という宝物」という言葉のとおり、一人ではありません。同じ時間、同じ場所で頑張ってきた仲間も、同じように頑張っています。くじけそうになったときは、側にいて支えてくれるでしょう。それでも苦しいときは、仲間だけでなく、信じられる人生の先輩方に助けを求めればよいのです。自分を、未来を信じて、迷わずに進んでください。

最後になりましたが、保護者の皆様におかれましては、お子様の御成長とお卒業を心よりお喜び申し上げます。併せて本校教育活動への御理解と御協力を賜りましたこと、深く感謝申し上げます。

## かけがえのない三年間

PTA会長 保田 伴奈

二十九回生の皆様、御卒業おめでとうございます。きっとあつという間の三年間だったと思います。緊張感に包まれ、不安と希望が混ざった気持ちの入学式から今まで、自分自身が成長できたか、そして成長している自分自身がここにあると思います。それは、自ら選んで歩んで来た道のりでもあります。この学校で身に付けたことは、今後の人生に確実に活かされることでしょう。

私の印象的な言葉になりますが、アインシュタインという天才は、このよう有名な言葉を残しています。『素直さが最大の知性である。』素直な気持ちこそ、一番の知性。これからずっと、素直さを持ち続けてください。

保護者の皆様におかれましては、立派に成長されたお子様の御姿に晴々しいお気持ちのことと思います。この場をお借りして、三年間PTAへの御理解と御協力に加え、お子様へのサポート等、大変お疲れさまでした。ありがとうございます。先生方には日常的に献身的な御指導や子供達への愛情を注いでくださり、本当にお世話になりました。保護者を代表してこの場をお借りして心より感謝を申し上げます。ありがとうございます。

## 卒業生の言葉



私がこの三年間で頑張ったことは、積極的に人とコミュニケーションをとり、より良い人間関係を築くことです。

私は、幼いころから引越しを繰り返していたため、人と関わることが怖くなっていました。しかし、この学校に入学してからは、分からないことを先生に質問したり、友達と趣味の話をしたりできるようにしました。これは私一人の力ではなく、これまで様々なことを教え、見守ってくださった先生方や仲間のおかげです。

この感謝の気持ちを忘れずに、社会人になっても一生懸命努力していきます。

K・R

私が三年間で身に付けたことは、自分から動くことと、質問や報告をすることです。中学生の時は、誰かがやってくれるまで待つことが多かったり、先生が教えてくれるまで質問や報告をせずに待っていたりしました。

でも、この学校に入学して、たくさん先生方に指導してもらい、しっかりと自分の課題と向き合っって身に付けることができました。

社会人になっても周りを見て自分から行動することと、報告や質問を自分からすることを頑張っていきます。

U・W

## 先生方から卒業生へ



二十九回生卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

印象に残っていることは文化祭で披露した「僕らまた」の合唱です。皆さんの心を一つにする素晴らしい瞬間でした。あの歌声には仲間との絆や努力の結晶、未来への希望が込められていました。その経験を胸にこれからも自分らしく輝いてください。

教頭 藤部 裕美

二十九回生の皆さん、御卒業おめでとうございます。

これまでの努力や苦勞してきたことがこの瞬間に繋がっています。新しいステージに進み、これから歩んでいく道には、たくさんの方の可能性と挑戦、そしてその先には笑顔が待っています。失敗を恐れず、自分の信じる道を見付けながら進んでください。また会える日を楽しみにしています。

部主事 西 孝則

二十九回生の皆さん、御卒業おめでとうございます。

学校生活では、楽しいこと、苦しいこと、いろんなことを経験したと思います。でも、そこには頑張っている姿があり、発揮しているときのみんなはとて輝いていました。努力は無駄にはなりません。皆さんの人生も輝きに満ちていることを願っています。

三年学年主任 梶村 志奈

卒業おめでとうございます。前向きに努力ができる、皆さんのことが大好きです。周りを愛し、愛される、素敵な大人になってください。

1組 担任

卒業おめでとうございます。この三年間卒業後の就労や社会生活に向けて学んできたことをこれからぜひ生かして活躍をしていってください。

2組 担任

御卒業おめでとうございます。一緒に学べ、たくさんの方のことを経験できたことへの感謝でいっぱいです。これからも応援しています。

3組 担任

これまで学んできたことは、きっとこれからの人生の支えとなります。社会人としての活躍を願っています。また逢える日を楽しみにしています。

4組 担任

御卒業おめでとうございます。周囲に優しく、家族や自分を大切にしながら、職場で信頼される人になってください。ずっと応援しています！

5組 担任

卒業おめでとうございます。笑顔は幸せを呼びます。試験の時こそ笑顔を見せ、前を向いて進んでください。皆さんの未来に期待しています。

6組 担任

## 第二十九回生の進路



二十九回生四十四名は、地域や社会の温かな支えを受けながら、それぞれの未来に向けて歩み始めています。

進路先には、初めて本校の卒業生を迎えてくださる企業も多く、こうした新しいつながりは、生徒にとっても企業にとっても大きな一歩です。また、これまでの卒業生の定着率が高いことから、「再び採用したい」という声も寄せられ、複数名が就職に結びつきました。

近年、働き方や雇用環境は変化を続けています。最低賃金の引き上げや待遇改善が進む一方で、正社員として求められる力はより高まっています。そのため、短時間勤務から始めて慣れていく仕組みや試用期間を設けるなど、企業側も柔軟な工夫を重ねています。

どの職場でも変わらず求められるのは、休まず出勤すること、明るい挨拶や返事をする、そして与えられた仕事に誠実に取り組む姿勢です。地域と企業、学校が力を合わせて築くこの環境の中で、二十九回生が信頼され、充実した日々を送ってくれることを心から願っています。



進路指導主事 山田 瑛己

### 学校祭 体育祭

十一月六日（木）、快晴のもと第三十  
一回体育祭が開催されました。当日は  
早朝より多くの保護者の方々に御参観  
していただき、盛大に開催をすること  
ができました。



体育祭では、各学年を縦割りにし六  
クラスに分かれて、学年種目や団対抗  
リレー等の各種目の得点を合計し、そ  
の総合得点で順位を競い合いました。  
また、各クラスに分かれてダンスのパ  
フォーマンス発表も行われました。隊  
形移動や掛け声等工夫を凝らした発表  
があり、大変  
盛り上がりま  
した。  
勝敗を決め  
るのは、まさ  
しく「チーム  
ワーク」で  
す。三年生  
は、最上級生  
として後輩た  
ちにどうすれ  
ば勝てるか、  
アドバイスを  
し、後輩たち  
は、三年生の  
リーダーシッ  
プのもと何度  
も練習を繰り返

返しました。思うようにいかなかった  
クラスもありましたが、全員一丸となつ  
て頑張ることができました。二年生男  
子からは、「来年は、僕たちが中心とな  
り体育祭を盛り上げたい」と来年に向  
けての意気込みが聞かれました。本校  
の良き伝統です。

### 学校祭 文化祭（販売実習）

今年度の文化祭の販売実習では、多  
くの方々に御来場いただきました。

農芸の授業で生徒が育てた新鮮な野  
菜は、開始早々に完売するほどの人気  
を集めました。また、窯業、セメント、  
金工、木工、紙工、縫工の各製品を多  
くの方に御購入いただきました。セメ  
ント製品については、小物製品のほかに、  
平板ブロックを例年以上に多くの  
方から御注文いただきました。生徒た  
ちのものづくりの成果を広く知って  
いただく機会となり、生徒自身も、も  
のづくりの喜びを感じられる貴重な機会  
となりました。  
当日は、保護者の皆様をはじめ、本  
校卒業生や日頃よりお世話になってい  
る企業の方々にも足を運んでいただき、  
温かい励ましの言葉や御支援をいた  
だきました。生徒たちは、販売や接客を  
通じて実践的な学びを深めることが  
でき、大きな達成感を得ることができ  
ました。

御来場いただいた皆様に心より感謝  
申し上げます。今後とも本校の教育活  
動への御理解と御協力を賜りますよう、  
よろしくお願い申し上げます。



### 学校祭 文化祭（舞台発表）

十二月二十三日（火）、文化祭く舞台  
発表が行われました。

一年生は、ハンドベル演奏を披露し、  
澄んだ音色を会場に響き渡らせること  
ができました。二年生は、『雨ニモマケ  
ズ』の朗唱に取り組み、力強い声で作  
品の世界観とどのような自分になりた  
いかを表現しました。三年生は、『僕ら  
また』をテーマに、これまでに身に付  
けた力や将来の夢について発表しまし  
た。

### 職業講話

最後には、  
各学年から  
選ばれたバ  
ンドメン  
バーによる  
演奏が行わ  
れ、会場全  
体が一体と  
なって盛り  
上がり、温  
かい雰囲気  
に包まれま  
した。



十二月一日に、全校生徒を対象とし  
た職業講話がありました。今年、ゆ  
たかキャリアデザインラボの高橋様を  
講師にお招きし、社会人になってすぐ  
に通用するビジネスマナーについてお  
話していただきました。

受講後の生徒は、「日頃から丁寧に話  
すことの大切さを学んだ」とや、「コミュ  
ニケーションに広がりをもたせるには、  
挨拶に一言でいいから何か情報を付け  
加えるというすぐに実践できるスキル  
を覚えた」となど、人と関わる際に意  
識すべき内容や方法が理解できたよう  
です。特に、第一印象が数秒で決まるこ  
とに衝撃を受けた生徒が多かったよう  
で、まずは身だしなみを意識したいと  
いう言葉が多く聞かれました。

## 二年生 野外活動

十二月三日（水）から一泊二日で、岐阜市少年自然の家で野外活動を行いました。

初日は、クラスで自然散策を楽しみ、竹スプーン作りをしました。のこぎりやなた、小刀の扱い方に苦戦しつつ、一枚の竹板から、オリジナルスプーンを仕上げました。スプーンの柄に名前や絵を削ったり、滑らかなカーブになるよう薄く削ったり工夫し、持ち前の器用さを発揮していました。

夜は、施設内のホールでキャンドルサービスマスや出し物を披露して楽しみました。薄暗い中、燭台を中心に円陣を組み、全員にキャンドルの火が灯ると、キャンプファイヤーとは一味違った一



体感を感じられました。一発芸やクイズでは、仲間の普段見られないユーモアある一面が見られ、みんなが笑顔あふれる愉快な時間となりました。

二日目は、積雪の中の野外炊事。クラスで協力して作った熱々のウインナーカレーを、製作した竹スプーンで頬張った美味しさは、格別でした。寒さを忘れるほど雪遊びに夢中になり、十分季節に親しむことができました。

この野外活動を通して、学年やクラスの間との絆が深まり、自らの成長を実感することができました。

## 三年生 修学旅行

十二月十日から十二日までの二泊三日、広島県と大阪府へ修学旅行に出かけました。

一日目は宮島を訪れ、表参道では学級の仲間と食べ歩きやお土産選びを楽しみました。厳島神社では自然や伝統の美しさを改めて感じ、宮島水族館では生き物の不思議に触れ、命の大切さを考える時間となりました。

二日目は広島の平和記念公園とマツダミュージアムを見学しました。平和記念公園ではボランティアガイドさんの案内を受け、戦争の悲惨さや命の尊さについて深く考えることができました。昼食には広島名物の「広島風お好み焼き」をいただきました。食を通して

て地域文化に触れる貴重な体験となりました。午後はマツダミュージアムで自動車づくりの歴史や最新技術に触れ、ものづくりの奥深さを学びました。

三日目はユニバーサル・スタジオ・ジャパンで、アトラクションや食事、買い物仲間と楽しみました。学校では見られない笑顔や協力する姿がたくさん見られ、思い出に残る一日となりました。

卒業を前に、三年間ともに過ごした仲間と過ごした三日間はかけがえのない時間となり、心に深く刻まれる一生の思い出となりました。

## 卒業生の集う会

十二月七日（日）、本校体育館で二十八回生を対象にした「卒業生の集う会」を開催しました。この会は、社会人として会社に馴染んでいるか、職場での現状を報告したり、卒業生同士の交流を深めたりし、日頃の悩みを相談できる場になることを目的としています。

四月に入社してから約八か月。久しぶりに先生や仲間と再会し、笑顔で近況を語り合う姿が印象的でした。仲間の活躍や思い出話に花を咲かせ、安心できるひとときを過ごせたことと思います。これからの長い社会人生活が、より充実したものになることを心から願っています。

## 寄宿舎ウインターフェスティバル

十二月十六日、午後五時十五分より食堂にてウインターフェスティバルが行われました。すっかり恒例となった「ビンカン選手権」。少しずつ変化していく映像を見て、変化に気付くことができるかどうか。ゲームが始まると、参加者たちは真剣なまなざしで見っていました。

もう一つは「寄宿舎ビンゴ大会」。舎生と寄宿舎職員の名前をビンゴカードに記入し、オリジナルのカードを作成。テレビに顔がランダムに映し出され、そのたびに会場は熱気に包まれ、心温まる雰囲気を作り出すことができました。二学期の最後にふさわしい締めくくりができました。

